

## 第1回仙台市観光戦略推進検討会議 議事録

日 時 令和7年9月3日(水) 15:00~16:45  
会 場 仙台市役所本庁舎8階 第四委員会室  
出席委員 結城会長、増子副会長、阿部委員、梅原委員、嘉藤委員、神崎委員、  
栗田委員、佐藤委員、菅原委員、鈴木委員、高橋委員、高山委員、  
戸田委員、林委員、深松委員  
欠席委員 庄子委員  
事務局 仙台市長、文化観光局長、文化観光局次長、観光交流部長、観光戦略課長、  
観光戦略課企画調整担当課長、インバウンド・MICE 課長、東北連携推進室長、  
東北連携推進室東北連携推進担当課長、経済局産業政策部長

### 議事(1)会長および副会長の選出について

#### 司会

会議の進行にあたり、要綱第4条に基づき、会長および副会長を選出させていただきます。  
要綱では、委員の互選となっております。  
自薦他薦ございましたら、挙手の上、ご発言をお願いいたします。

#### (高山委員挙手)

#### 司会

では高山委員、お願いいたします。

#### 高山委員

仙台市の観光に最も精通していると思われ、仙台観光国際協会の結城理事長をご推薦したいと思います。

#### 司会

ただいま結城委員を会長にという推薦がございましたが、委員の皆様いかがでしょうか。

#### 一同

異議なし。

#### 司会

それでは結城委員に会長をお願いしたいと存じます。  
結城委員いかがでしょうか。

#### (結城委員了承)

#### 司会

それでは会長席の方にご移動の方をお願いいたします。  
次に、副会長の選出を行います。  
要綱により、副会長は会長の指名となっておりますが、結城会長いかがでしょうか。

#### 結城会長

それでは恐縮ですが私の方からは副会長の方を指名させていただきたいというふうに存じます。  
日本旅行業協会東北支部の増子支部長をお願いしたいというふうに存じます。

増子支部長よろしくお願いいたします。

#### 司会

増子委員、いかがでしょうか。

#### (増子委員了承)

#### 司会

それでは増子委員に副会長をお願いしたいと存じます。  
副会長席にご移動の方お願いいたします。  
ここで結城会長より一言ごあいさつをお願いいたします。

#### 結城会長

改めましてただいま皆様の方からこの検討会の会長にご推挙いただきました、仙台観光国際協会の結城でございます。

お手元の資料の方にも新しい仙台市の観光戦略ございますが、今回の戦略から宿泊税が新しい財源として活用されるということになりますので、ホテルとか旅館とかの宿泊業に関わる方々はもちろんですけれども、それ以外の観光に関わる様々な活動にとっても、どんな施策、事業に投資されるのかといったこと、それから事業の進捗についても大変注目されるんだらうというふうに思っております。

私としてはそうした観光に関わる方々だけでなく、せっかくですので、ここでの議論を通して、多くの市民の方にもたくさん興味を持っていただいて、観光に関する施策の内容や課題について、一緒にこういう共有ができる、そんな機会になればと思っております。

そういう意味におきましても、各関係機関、ご見識のある方に多くいらっしゃっていただいておりますので、忌憚のないご意見をいただきながら、そうした意見が仙台市で事業を進める上でいい刺激になるような、そういう会になればと思っております。

2年近く任期あるようですのでどうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

#### 司会

ありがとうございました。  
続きまして、増子副会長より一言ご挨拶をお願いいたします。

#### 増子副会長

皆様改めましてこんにちは。

日本旅行業協会で東北の支部長を仰せつかっております増子でございます。

本日は会長から副会長へのご指名ということで、身に余る光栄でございますし、本日仙台市様から観光戦略推進検討会議ということで、様々な中長期的なストーリーに基づいたご提案をいただくことになっております。

宿泊税の徴収、新たな財源をどういうふうを活用して、地域に新たな光を皆様方と描いていけるかというところが大きなポイントになるかと思っておりますので、今回、委員として、そして副会長として、会長をお支えして、皆様とともに、やはり仙台市の皆様はもとより、仙台市を訪れてくださる方々に、さらなるご訪問がかなうよう、尽力して参りたいと思っておりますので、皆様どうぞよろしくお願います。

本日はありがとうございました。

#### 司会

ありがとうございました。  
それではここから要綱に基づき、結城会長に議事進行をお願いしたいと思います。  
結城会長よろしくお願いいたします。

## 議事(2)観光戦略の進捗状況、宿泊税の使途、今後の観光施策について

### 結城会長

それでは会長としてこの検討会の方を進めさせていただきたいと存じます。

早速ですが次第に沿って議事を進めて参ります。

まず「(2)観光戦略の進捗状況、宿泊税の使途、今後の観光施策について」、事務局から説明をお願いします。

### 事務局(渡辺企画調整担当課長)

資料2を用いて説明。

### 結城会長

ありがとうございました。

ただいま事務局から新しい仙台市の観光戦略の概要と宿泊税を活用した取り組み、その具体例を説明していただきました。

最後の方では市内の宿泊事業者へのアンケート結果の説明、そして終わりにということで今後のスケジュール連の説明がございましたが、ただいまの説明を踏まえて、そして新しい戦略がございますので、それぞれ委員の皆様から一言ずつ、ご意見なりご質問をお伺いしたいと存じます。

今日は私と副会長を入れて15名おりますので、時間も限りはございますが、おひとり2～3分程度を目安に、最初に若干自己紹介も含めていただいて、ご意見等頂戴したいと存じます。

それでは恐縮ですが時計回りで阿部委員からよろしく願いいたします

### 阿部委員

株式会社和楽旅行者の阿部と申します。

弊社インバウンド専門の旅行会社です。

まず資料14ページのインバウンド増に向けた取り組みについてお話ししたいと思います。

行政単独でそういうプロモーションを行うとどうしても、紹介しました、という成果だけにとどまってしまう傾向になってしまうので、実際の送客や宿泊の利用に直結しにくい面があると思います。

一方で、例えばですが、旅行会社とか、宿泊施設、特に例えばスキー場だったりとか、そういった施設と一緒に海外に出向いて、自分たちの商品やサービス等を直接PRするチャンスがあれば、そのまま予約だったり、集客に繋がる大きな強みがあるのではないかと考えています。

しかし現状では、大手はおそらくそういう海外セールスを頻繁に行えますが、中小の旅行会社や宿泊施設は十分な予算がないので、なかなか海外でのプロモーションに参加できない現状があります。

そこでこの宿泊税を財源として、中小事業者を対象に海外プロモーションの補助金を出してはいかがでしょうか、と考えております。

補助があれば、これまで参加できなかった事業者さんも参加しやすくなりますし、海外のPRにも挑戦できます。

結果として個々の事業者の集客にとどまらずに、仙台市全体の観光PRにも繋がり、宿泊客の増加や滞在の日数の伸びという波及効果が得られるのではないかと考えております。

以上です。

### 結城会長

ありがとうございました。

プロモーションのあり方ということでございますが、このことについて何かコメント等事務局でございませうか。

### 事務局(高橋観光交流部長)

ありがとうございます。

観光交流部長の高橋と申します。

インバウンドに関しまして今阿部委員ご指摘の通り、行政としては一般的にまず仙台を知っていただくとか、仙台の観光の魅力について、或いはその位置関係ですとか、ルートなどについてご紹介をするということ、スタートラインとしてやらせていただいております。あわせてやはり結局来ていただいてお泊まりいただいてという、先ほどの戦略にもあったお話ともなりますので、実際にお客様と相対される事業者の皆様とお客様をお繋ぎしていくということが大事だと思っております。

事業者の方のセールスコールであるとか、今までもお声掛けして一緒に行かせていただくということは、仙台観光国際協会も含めてやらせていただいておりますけれども、引き続き、より積極的に事業者の皆様と一緒にお客様を獲得していくということについて、どういったことがさらに踏み込んでできるか考えて参りたいと思います。ありがとうございます。

#### 結城会長

ありがとうございました。

それでは次に進ませていただきます。

梅原委員お願いいたします。

#### 梅原委員

仙台ホテル旅館組合の梅原と申します。

宿泊税に関しまして、我々旅館組合でこの宿泊税が決まるまでは、ずっと反対という立場をとって参りました。

その中で宿泊税を徴収するということが決定し、我々としましては、直接納税者である宿泊客の皆様から直接税をお預かりする特別徴収義務者として、その用途に対して大きな責任を負っていると思っております。

この会議で宿泊税の用途についていろいろ決めていくと思いますが、しっかりと検証までしていただいでどんな効果があるのか。あんなことがいいんじゃないか、こんなことがいいんじゃないかと。

もちろん失敗もあるとは思いますが。

ただあれが失敗だったんだな、これが成功だったんだなということをきちんと把握して。

広告代理店などに丸投げをして、無駄に税金を使わないよう、我々でしっかりと使い道を考えていければなと思っております。

実は先週、仙台市の宿泊事業者の連携会議ということで、この仙台市役所に集まりまして、宿泊事業者で会議を行っております。

今まで皆さん反対という立場をとって参りましたが、もういざ宿泊税を徴収するということは決まっておりますので、やはり前向きに、どのように本当に使ったら効果的なのか、という現場の意見を出していつてるつもりですので、ぜひ宿泊事業者連携会議で出た意見というものも、大いに参考にさせていただければと思っております。

私もやはり仙台で宿泊業を営む者として、地元愛というのがすごく大切だと思っております。

やはり我々がこの地元を愛して、来ていただく観光客の皆様はその思いを伝えて、また来ていただきたいという気持ちを伝えたいと思っておりますので、具体例はいろいろ思っているところではありますがそれはまた後程、何か意見のところでも述べさせていただきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

#### 結城会長

ありがとうございました。

決まったからには前を向いて、きちんと事業をしていただきたいというような話の内容でございました。

ありがとうございました。

続きまして嘉藤委員お願いいたします。

#### 嘉藤委員

鐘崎の嘉藤でございます。

私どもは笹かまぼこという仙台の食文化を発信する事業を行っております。

したがって、普段から仙台市民の方、そして仙台へ観光で訪れるお客様と触れ合っておりますの

で、お客様の声を聞いている立場として、感じるところを少しお話しさせていただきたいと思います。様々なすばらしい取り組みを掲げていますが、やはり仙台宮城の弱いところというのは、まだまだ魅力が伝わるような発信力が足りないことではないかなと思います。

新しいものを、観光スポットを作るということもこれは理想かもしれませんが、まずはこの既存の豊富な観光資源多くありますので、これをつなぐ工夫、これが必要なのではないかなと感じています。しかも仙台というエリアだけではなく、やはり仙台東北というくりでとらえたらいかがかなと思います。先週末も、一昨日ぐらいまで仙台駅周辺もかなりにぎわっていました。

何かなと思いましたら、大曲の花火大会に行った方が仙台に立ち寄って観光されてた、というそんな事例もあります。

ですので資料 2 の 16 ページ 17 ページに、仙台を拠点とした日帰り観光促進という内容がありますけれども、やはり東北で開催されるイベントと合わせて、どうやって仙台に立ちどまって、立ち寄ってもらえるか、プラス一泊に繋がるか。そのような推進もできたらいいのではないかなと思います。

それから、16 ページにあります、大阪・関西万博に東北絆まつりとともに出展を行いました。私も現地でブース出展で参加しましたが、本当に素晴らしいと思い、感動しました。

お客様から、今度はぜひ東北に行って、もう 1 回体験したい、という声をたくさん聞きました。

ですので、来てもらうためにもっともっとこちらから発信するという、全国キャラバンのような形で、どんどん来てもらうために我々から動いていくことも必要ではないかなと思います。

そういう取り組みを、新たな財源で予算を作っていけたらいいのではないかなと思います。

あともう 1 点、今年の夏、非常に実感したんですけれども、当社の観光施設非常にお客様がたくさん訪れました。

昨年に比べると 1.5 倍ぐらいのお客様訪れました。これ何かというところすごく暑かったことが要因でした。外での観光ができなくて、インドアでの観光を非常に求められていて。やはり涼しいところで過ごしたいということで、訪れたのではないかなと思っています。これから西公園でも建設されるインドアの施設についても、仙台市民の方も無料を求めてらっしゃると思いますけども、観光スポットっていうとらえ方をもしするならば、お金を取って稼げるような、そういうことのお考え方もこれから天候リスクということも十分に考えなければいけないかなと思いますので、大事なことはないかなというふうに思いました。

以上でございます。

#### 結城会長

ありがとうございました。

情報の発信力というか、その強さ、これが足りないのではないかなという視点でのお話でございました。続きまして神崎委員お願いいたします。

#### 神崎委員

仙台国際センターという川内の国際会議場から参りました神崎と申します。

よろしく願いいたします。

国際センターは、ご存じの通り 4 月の 20 日から 30 年あまりご利用いただいておりますが会議棟が 2 年半ほどのお休みをちょうだいしております、今は 2027 年 11 月 1 日からの全館開館に向けて工事に入っております。

もう片方の展示棟の方はご利用いただいております、先ほどご紹介いただきました 4 月の外科学会や、4 月にももう 1 つ、1 万人から 8000 人規模の学会、それから会議棟休館に入った後も 5 月に産業衛生学会という、6000 人規模の学会を、それも周辺の施設様と一緒に活用していただいて分散開催で、開催していただいている実績もありまして、いわゆる MICE 施設というのは、集客施設なんだというところをずっと実感している状態です。

やはり MICE 施設、集客施設は裾野が広い、皆さんに非常にかかり合いが高い施設でございます。例えばいらっしゃった方がお泊まりになって、しかも連泊をされて会議に参加される。それから街に出てご飲食をされるですとか、もちろん観光施設に行って、仙台宮城のいろいろなものを見ていただくですとか、お土産を買っていただくですとか、そういったことが波及効果としてあるんですけれども、仙台国際センターを利用していただくだけではなく、地域のところでいろいろとお金を使っていただいて、仙台の地域の経済発展ですとか、地域経済の活性化に寄与することがやはり MICE の施設としての最大の

目標なのではないかと思っております。

ですので我々も利用者様に2日間、3日間使っていただくように努力をさせていただいておりますし、例えば仙台宮城の観光地ですとか、宿泊、それから飲食に関して、仙台観光国際協会さんと一緒になって、利用者様にPRしているというようなところでございました。

ただ先ほど嘉藤委員もおっしゃいました通り、東北絆まつりが昨年、青葉山エリアで開催されたとき、それから、青葉山エリアは大きな集客施設がたくさんありますので、そのイベントが重なったときに、パークと人が来てしまって、やはりハード面の整備がちょっと追いついてないのではないかというのは、エリア一体としての課題と思っておりました。

交通渋滞を引き起こしまして周りの住民の皆様にご迷惑をおかけしたりですとか、地下鉄に乗れなかったりですとか、あとは駐車場がなくなってしまって、駐車場近辺が非常に混雑してしまう、ですとか。あとはいらっしゃった方が案内サインがちょっと分かりにくいのでどうしてもたどり着けないですとか、そういうハード面に関して非常に課題があるなというふうに実感しておりますので、ぜひ先ほど宿泊税のお話も出ましたけれども、そういったところで、これから多くの方にいらっしゃっていただくために、ハード部分の整備もぜひやっていければというふう思っております。我々施設の方も一緒に対策をして、協力して連携してエリア一体でやっていけたらなというふうに思っております。

以上です。

#### 結城会長

ありがとうございました。

続きまして栗田委員の方からお願いいたします。

#### 栗田委員

東北観光推進機構栗田と申します。

お世話様でございます。

まず皆様には、私ども東北観光推進機構として様々な欧米豪アジアのプロモーションに対してご協力いただきまして大変ありがとうございます。

また今年は、大阪・関西万博につきましては仙台市を初め、公益委員の皆様にも、東北絆まつりと一緒に大阪・関西万博でプロモーションさせていただきまして、無事大成功ということで納めさせていただきました。本当に皆様のご協力なければ、この大阪・関西万博でのプロモーションも成功しなかったと思いますので、今後このようなことも様々なチャンスを生かして、検討していければというふうに思いますのでこれからもよろしくお願いいたします。

私としては今回のこの話を受けまして、私ども海外プロモーションしてる中で、様々な外国の方から言われる意見の中で、まず宿泊施設では、コロナ前は受入として対応できていたものですが、入浴するときのマナーの掲示が、今は無くなっていて。入浴施設において、外国人の方が何もしないで入られて日本人が嫌な思いをするといった、そういう事例が増えているという状況もあります。やはり啓発ポスターというのを、もう一度改めて各宿泊施設に準備をしていただくということと、加えて宿泊施設等においても、外国人の方がお土産を買いたいけれども、日本語表示しかなく、何をどう買っているかわからないという意見も様々伺います。

そういう状況があるため、ちょっとした英語表記でもいいので、案内を整備していくことによって宿泊施設でお土産を買っていただくとか、地域の商店街でお土産を買っていただくということも可能だと思いますので、そういうちょっとした英語表記とか多言語表記も必要なのではないかと考えているところでございます。

嘉藤委員も言われておりましたが、新しいコンテンツを考えるのではなく、今かなり仙台市さんも含め、いろいろなコンテンツが市内にございますので、宿泊税とかを取ると、宿泊事業者のために宿泊料金を割引をして、市外から、地域への誘客につなげるということを政策としてやられる地域が結構多いんですけども、それはそれでやっていただいても結構ですが。逆に、宿泊施設を地域のコンテンツ事業者を絡めて、様々な地域の体験施設を楽しんでもらって、そこに体験した方に対して補助をして、地域のコンテンツをしっかりと認識をしていただくというような取り組みをやっていただくことによって、地域一体となった相乗効果というのが図れるのではないかと考えております。そういうところも含めて、地域一帯、温泉地域一帯、またホテル、仙台市内のですね、街中一体となったそういう取り組みというのが必要で

はないかと思ったところでございます。  
ありがとうございます。

#### 結城会長

ありがとうございました。  
佐藤委員お願いいたします。

#### 佐藤委員

日本航空の佐藤と申します。

本日1個人として感じている意見をお話しさせていただければと思います。

まず1つは仙台ならではのシンボルをつくることと発信力の強化についてです。

仙台には伊達政宗像でしたり、七夕まつりといったシンボルはございますが、全国的にここに来たいと直感的に思わせるような決定的なアイコンはまだまだ弱いように感じております。

例えば大阪であればUSJ、海外であればパリのエッフェル塔といった地名を聞いただけでも頭に浮かぶ象徴的なものがありますけれども、そういったものがあることで旅行者の方は1度行ってみたいとこう強く、動機づけられるかと思えます。

仙台でも同じように、仙台と言えばこれだ、といえるようなユニークな体験や風景を生み出していくことが大切かなと思っております。

これを新しく作るだけではなくて、既存のものの見せ方を変えたりするのも大切だと思います。

新しく作り出す場合でも、その内容が他の地域と同じようなものであれば意味がありませんので、例えばイルミネーションですと全国世界中どこでも見られるものだと思いますが、もし仙台でやるのであれば、圧倒的な規模であることですか、仙台でしか体験できない独自性がなければ価値はなかなか出にくいかなと思っております。

なので地元の方が楽しむだけではなくて、全国や海外からわざわざ足を運びたいくなるというようなものを作り出すことが大切だと考えております。

また先ほどもお話に出ましたが、その価値をどう発信するかも大切だと思っております。

仙台は食や自然、歴史ですとか素材にはすごく恵まれていると思いますけれども、正直なところ仙台＝〇〇、これだというのがなかなかお客様に届いていないという印象がございます。

ですので仙台＝〇〇という明確なメッセージを国内外に発信することで初めて、仙台市のコンテンツですとかそういったシンボルが本当の力を発揮するのではないかなと考えております。

特にSNSの発信、仙台でもつい写真や動画を撮って投稿したくなるような、誰かにシェアしたくなるような体験や景色を意図的に増やして、それを広げていくことが必要かなと思います。

そして2つ目はナイトタイムの魅力創出についてです。

やはりまだまだ仙台には夜の時間を楽しめる場所が少なく、一泊したくなる理由がやや弱いと感じております。

仙台の大きな強みは食だと思いますので、それを夜の時間に生かせるような仕掛けがあると良いのではないかなと思います。

例えば日本の居酒屋文化と東北の食材を組み合わせたイベントですとか、仙台朝市を夜にアレンジした取り組みですとか、仙台らしいナイトコンテンツがあれば、観光客の方の満足度が大きく高まるのではないかなと思います。

またもちろん、より夜の時間を楽しむためには安心して過ごせる環境づくりも必要かと思っておりますので、そのあたりの整備なども力を入れていただきたいと思っております以上です。

#### 結城会長

ありがとうございます。  
続きまして菅原委員の方お願いいたします。

#### 菅原委員

ありがとうございます。  
作並温泉旅館組合の菅原と申します。

今日はどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

作並及び仙台西地域は、自然が豊かなところでございますので、ちょうど昨日私は SenTIA さんの主催のセミナーに参加させていただきまして、アドベンチャーツーリズムの話をお伺いさせていただきました。

アドベンチャーツーリズムは海外のお客様に最近盛んに行われているものでありまして、滞在と周遊とも同じくセットにできるものと考えておりますので、作並及び西部地域の自然遺産や、今もう埋もれてしまったものもいくつかございますので、そういったものを掘り起こして、観光客の集客及び滞在に活用できればいいかなと考えております。

その際に、お客様を引率するインストラクターの育成が、必要になってくると思いますので、そういったインストラクターの育成に宿泊税の方から補助を出して、資格者をふやしていただきまして、アドベンチャーツーリズムを盛んにしていって、仙台及び東北の魅力を発信していければいいのではないかと私は考えております。

以上になります。

### 結城会長

ありがとうございました。

続きまして時計回りで深松委員の方からお願ひいたします。

### 深松委員

皆さんこんにちは。

仙台 reborn 株式会社の深松と申します。

アクアイグニス仙台という商業施設を運営しております。

私学生までと仙台で過ごして、社会人になって東京に出て 8 年間働いてから去年家業に入るために仙台に戻って参りました。

そういった観点でも当事者として今感じていることというのを、お伝えできればなと思っております。

私からはナイトコンテンツの創出という観点で 2 点お話ができればと思ってるんですけども、やはり学生のときから思っているのが、夜楽しめるところが仙台ちょっと少なくって、県外から遊びに来ていただいても、なかなか案内するところがないなというふうに感じていました。

今、東部沿岸部は人が住めません。

逆に言うと、夜はすごく真っ暗なので星が綺麗で、いろんなランタンみたいなものが映えます。

今年の夏が 2 回目、大規模に始めてから 2 回目だったんですけども、台湾ランタン祭仙台というイベントを実施しました。

街中だとなかなかロングランで実施というのは難しいんですが、私たちは今年 45 日間、実施したところ です。

実際その 45 日間で 8 万 5000 人ほど来ていただきまして、売り上げも歴代 2 位というふうに。仙台市さんにもご助力いただきまして本当にありがとうございました。

こういったナイトコンテンツがやっと芽が出始めたもので、東部沿岸部は新しい新規事業が多いので、創出をしていかななくてはいけないので、少しでもこれが広がってきたな、というものがあれば、どんどんそれを広げていく、といったところで。東部沿岸部に進出している事業者と、ぜひ来年は一緒に台湾から送られてくるランタンを同じ時期に飾って、周遊をさせていただけないかという話もしているんですけど、そういったときにやはり課題になるのがハード面です。

ハード面に関しては、どうしても事業者だけだと採算が合わないのが、今回はループバスというのがありましたけれどもぜひ来年も、そういったバスのような周遊手段があるご案内がしやすいなと思っております。

2 点目ですが、ついこの間、7 月の 30 日に津波警報がありました。

本当に我々はてんやわんやでした。不幸中の幸いで津波がなかった、大きな被害はなかったんですけども、警報が出たことによって、本当に実地訓練のような形になりました。

それをどうやって今後に活かしていくのか、ということ意見を交換するために、つい先日防災の日に事業者を集めました。三井アウトレットパーク、フルーツパーク、園芸センター、馬術場、アクアイグニス仙台です。

本当に忌憚なき意見交換というのできたんですけれども、今回不幸中の幸いでお客様がいらっしゃる前の時間に、注意報が出て警報に変わったので、結構スムーズに行けたんですけれども。これが例えば台湾ランタン祭のフィナーレの時間帯で来てしまったらどうなってしまうんだろうというところがありまして、本当に私たちは現場でいろんな命を預かって責任を取らなきゃいけない立場ですので、そういった話もすごく盛り上がりました。

その時に避難を、例えば外国の方や親子連れの方、皆さんにわかっていただくためには、アナログで、もうこの道で避難してくださいというものが無いと、このエリアって厳しいよね、という話にもなっていました。例えば蓄光板っていう技術があると思うんですが、そういったものでも猫のマークのところを辿って避難してください、といったような形にして。そこには QR コードも埋め込めるので、実はプラスアルファの観光としても使える。でも夜光って綺麗なところを、平時の際に観光として来ていただいて、ナイトコンテンツ化してしまって、有事の際には、それが実践に繋がるというような、そういった考え方でやっていかないと、私たちはどうしても何かイベントをしようとする、避難計画を作ってくださいとなって、頭を抱えてしまうので、そういったハード面について、観光と絡めて、実際に事業者もいるので、何か東部沿岸部もきちんと盛り上げられるようなそういったところに、お金を使っていけるといいのではないかなと思っております。

以上です。

#### 結城会長

ありがとうございました。

ハード面の話、ありがとうございます。

林委員お願いいたします。

#### 林委員

はい。仙台ホテル総支配人協議会の林と申しますよろしく申し上げます。

宿泊税の話のときから検討会議の方に参加をさせていただいておまして、本当にこれまでの間にいろいろな議論をさせていただいて、要望等も大分出させていただきます。

本当に前段の宿泊税をどう使うかといったところについては、大分要望を反映させていただいておりますので、これにつきまして申し上げるところはございません。準備の方も1月13日からと導入ということで、事前の告知の方も前広にお願いしたいといったことも取り組んでいただいておりますし、システム改修等に関わる経費についても、早々に対応していただいているということで、事業者の方は1月に向けての準備は着々と進んでいるといったような状況でございます。

今年の取り組みの中で、10 ページにもありますが、ナイトコンテンツ等で面白い取り組みもやっていただけで、青葉山エリアのナイトイベントが9月6日からということですが、実はこれを知ってる方というのは非常に少ないのではないかと。

多分ここにいらっしゃる方の半分以上は知らないのではないかと思います。

ロングランで実施するようですが、私も知ったのは、今週の初めです。

チラシもまだいただいていませんけれども、宿泊施設の方にも置いてくれといったようなことも言われておりますが、そういったことも、いずれ良い取り組みをしても、先ほども嘉藤委員の方からもありましたけれども、告知なり発信力というところに課題があるのではないかと思います。

ということで様々な取り組み、ものすごく期待をしております。

やるからにはしっかり発信をして、皆さんに情報をしっかり提供した中で取り組むと。それがやはり効果に繋がるということだと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

もう1点です。

いろんなイベントもやっていただきますけれども、一過性のイベントというのは、そのときだけは大勢いらっしゃる。

例えばこれも11 ページ、ドラゴンクエストウォーキングといったところで2万人という、お客様がこの3日4日の間にいらっしゃるということで、それはその日はものすごく賑わうでしょう。

課題はですね、それをそういうファンのお客様が仙台を訪れて、いかにその方々がまた来ようと思わせるかとか。或いはこのドラゴンクエストというイベントをですね、通年で何かモニュメントとかそういうものをやりながら聖地のようにしていくとか、そういうことをやりながらそのファンを何回も訪れさせるとい

ったような、一過性に終わらせないというところが大切なのではないかというふうに思います。ということで、私の方から2つでございます。

一過性のイベントはいかがなものか。

それは別なところへのさらなる繋がりを掘り起こしていく1つのツールであって、一過性に終わらせないで欲しいということと、前広な発信力というところをお願いしたいと思います。

以上です。

結城会長

ありがとうございました。

続きまして戸田委員の方お願いいたします。

戸田委員

はい。

JR 東日本当本部の戸田と申します。

私からは、この宿泊税の内容についていくつかお話をさせていただきたいと思います。

まず内容としましては、やはり1つの事業者ですとか、1つのエリア、そういったところでできないような広範な取り組みですとか、また規模の大きいもの、こういったものに使用しなければ、なかなか効果は出ないのではと思っております。

おかげさまで私達の新幹線もご利用は順調に増えておりまして、例えば先日のお盆の需要も、昨年を上回る結果となりましたし、ご利用は休日を中心に回復してきていると思っております。

一方でこれからさらに増やしていくためには、皆大きな取り組みをしていく必要があると思っております。

基本的にはこちらの資料にありましたような取り組みがもう非常にすばらしいものだと思いますし、また宿泊税に関するアンケートの書かれている内容というのはもう読んでいて本当にごもつともなことだなと感じました。

その中でも、特に私たちは交通事業者ですので、まず1つ目としては二次交通の整備というところ。

こちらについてはアンケートを読んでいて、もうその通りだなと思って拝読しておりました。

例えばアンケートにもございましたが、駅周辺は便利なんですけれども、もう少し広範に見たときに、という点ですとか、またインバウンドですとかナイトコンテンツを利用するための広範な横断的なですね、二次交通というものについてはまだまだ整備が必要というようなアンケートもございました。

またこういった二次交通の整備について、やはり私達 JR 東日本としてもぜひ一緒に、首都圏から多くのお客様をお呼びするためには必要と感じておりますので、ぜひこういうところは大事にしていきたいなと思っております。

また2つ目については、コンテンツの充実ということでありましたけれども、先ほど林委員の方からもありましたが、一過性の一時的なイベントというのは非常に効果があるものの、やはりよりレガシーに残るようなものも必要になってくるだろうと思っております。

こちらもいろいろご意見ありましたけれども、例えばお祭りや、既存の観光地でのさらなる魅力づけというお話ですとか、先ほどありましたが東部沿岸部地域の魅力づけですとか、既存のものにより魅力をつけていくということも必要なんだろうと思っております。

以上です。2点を我々私のご意見として申し上げさせていただきます。

よろしく申し上げます。

結城会長

ありがとうございました。

高山委員、お願いいたします。

高山委員

仙台商工会議所の高山です。

皆様には日頃より大変お世話になっておりましてありがとうございます。

私は今申し上げたように商工会議所の立場なので皆さんとはちょっと違った視点で、発言をさせていただければと思います。

やはり観光とまちづくりは一体、というふうに思っています。仙台市で令和5年度に観光実態調査を行って、仙台を訪れる観光目的、一位が本格グルメ、2位が自然景観その次に、街歩き・街並み散策というのが挙げられておりました。

その意味からも、中心部商店街をはじめとしたまちづくりというのは市内観光における重要なコンテンツだと思っておりますので、その辺もうまく、宿泊税というわけではありませんが、連動させながら、取り組んでいく必要があると思います。

あわせてインバウンドの視点で、インバウンドの消費について24年度全国的に宿泊費が33.6%、飲食費が21.5%、買い物代29.5%ということで、84.6%が何とか地域で取り込むことが可能な消費ではないかと思っております。そういった意味でより多くこの地で消費していただいて、満足して帰っていただいて、次につなげていくかということも大切だと思いますので、やはり仙台市に宿泊いただいて連泊してもらえぬ施策を、どう打っていくか、それによって飲食費も買い物代も増えていくというふうに思います。

そういった中で今回の提案の中には宿泊税が中心になるので、やや外れるかもしれませんが、ショッピングツーリズムという視点が欠けているのでは、と思っております。

外国人の旅行者の訪日目的の第2がショッピングということで、インバウンド消費の3割がショッピングだそうです。

そして日本が免税売り上げで世界一ということのようで、免税事業者6万店登録されているということなので、そういった恩恵を享受するためにも、宿泊施設と中心部商店街等が連携してショッピングや消費拡大、そういった取り組みもしていく必要があると思います。そして最後に1点、ラグジュアリーホテルの誘致というのが、実は仙台商工会議所9,500会員いらっしゃいまして、その代表する議員140名さんを対象に毎年懇談会を開催しており、その中で多く寄せられた観光関連のご意見の中にラグジュアリーホテルの誘致というのがありました。

当然宿泊税を生かした取り組みとしては、既存のホテルさんとか旅館さんのソフトだけじゃなくてハード面の整備もしっかりしながら、より快適な宿泊をいただけるように整備していくことというのが重要だと思います。

一方で、市全体としては、今般仙台市、宮城県と東北各県一体となり、フランスを中心とした欧米から誘客を推進するという中で、欧米の富裕層を誘客する、そういう中で欧米の富裕層を誘客するために、やはり世界的なホテルチェーンのラグジュアリーホテルが必要ではないかと思っています。

以前、富裕層の旅行を専門に扱っている欧州のエージェントさんと親交のある、日本のエージェントの方で仙台出身の方から伺った話で、欧州の方から新規目的地のオファーがあり、エージェントの方が仙台出身なので、東北仙台を紹介したいんですけども、やはり富裕層の方々は信頼が大切なので、それを崩さないような見合ったホテルをご紹介しなければならぬ。けれども、仙台東北だと中々そういったところがないから、中々ご紹介できないという話も伺っています。

仙台国際空港の初代社長の岩井さんも、ラグジュアリーホテルが仙台に出れば、ホテルとか旅館旅行会社さんがこれまでにない客層をしっかり引っ張ってくるからというふうなお話もされてました。実際愛知県と名古屋市で、連携して最大10年間で10億ずつ、容積率もインセンティブを与えるような施策を打って、ラグジュアリーホテルを実際に誘致されているというところもあって。実は先般、県の富県みやぎ推進会議の幹事会があり、そこでもその例を出しながら、検討し連携してラグジュアリーホテルを誘致されてはどうかという話をさせていただきましたところ、県側の回答で、知事からも実はフランスを中心に欧米からいらっしゃる方にふさわしいホテル、これが必要だというのは言われてます、というふうなご回答もいただいております。

ぜひ宮城県さんと連携しながら、ラグジュアリーホテルを誘致していくというの、これからの仙台のインバウンドを考えた上で必要ではないのかなというふうに感じています。

以上です。

結城会長

ありがとうございました。

高橋委員、お願いいたします

## 高橋委員

秋保温泉旅館組合緑水亭の高橋でございます。

よろしくお願いいたします。

仙台西部地区エリアの魅力創出ということと、秋保エリアの観光の魅力という掘り出しをこれまでも地域全体となってやって参りました。

これからも引き続きそこはコツコツと続けて参りたいと思っております。

また来年の1月からの宿泊税導入に向けて、私ども宿泊業界腹を据えて、向き合っていくためにも、とても前向きなんですけれども個人的に私の中での結論といたしましては、仙台の人口増に繋がればいいなと思っております。観光として来ていただくお客様が増えることと、そしてそれを受ける我々のような観光の分野で働く者、またそこに携わる未来の子どもたちが仙台から出ていかないように、そこに繋がるような財源の使い方がなされれば、という願いを持っております。

新しい観光戦略の概要の中にも仙台らしいコンテンツがたくさんありますが、やはりこれの発信力が弱いのではないかと、私も同感でございます。

その部分の強化、発信力のツールをもっと増やすとか。どうしても発信力も西高東低、東北の観光も西高東低かなと実感しているところでございますし、また欧米やヨーロッパの皆様からしますと、宮城仙台が世界地図の中でどこにあるか全く知られてないような、実際にヨーロッパに行ってみるとそんな実態もでございます。

東京・富士山しかわからないような、そんな実態もありますので、もっともっとまだまだ、発信力を強めていくというところで、たくさんの方の仙台らしさがこの新しい観光戦略の中に盛り込んでありますので、それをいかに出していくかというところが、肝であると思っております。

また先ほどもイベントが一過性ではなくてというお話がありました。やはりイベントというどうしても1日頑張っただけというふうなことになるがちですが、これを例えば第2回目、第3回目と続けていくことでファンを作って、そして何度も仙台を訪れてもらえるような、そういう仕掛けづくりをしていくことが、このイベントを行う1つの目的でもあると思います。

また仙台らしいコンテンツの中にアニメ・Sを起用したというところがありますけれども、実は我が社で働いている人材として、ミャンマーやネパールの人材がおるんですが、この子たちがすぐコンテンツに反応いたしまして。こういう都市で自分たちは仕事ができている、そしてそういう都市の事業所の人に自分は選んでもらえたと。ここで長く仕事をしたい。

またこのドラゴンクエストウォークも、いち早く情報をキャッチしてきまして、やはりこのイベントのとき、シフトを変えてくださいとかですね。それぐらいワクワクしながら、海を越えて仕事に来てくれた人材が、そのように魅力あるまちなんだという、そこでは僕たちは働いてるんだという生き生きとした、働きっぷりを見ていると、やはり観光というのは人が必要であって、人とのコミュニケーションがとても大事なものが観光でありますので、これだけの人手不足、これだけの働き手不足を解消するためにも、新しい財源を使った様々なコンテンツを動かすものとしては、定住人口というんでしょうか。

仙台に住んで生きていく人口を増やしていく、そして観光にお越しいただく人も増やしていくというところで、そこに繋がっていくと個人的には思っております。仙台というのはとても上品な街であると思っておりますし、空気もとっても澄んで綺麗で。そういう意味ではもっともっとガツガツいって、人もお金も動かして馬力のある街に将来なればなど、仙台人としては思っておりますので、そこに微力ながら秋保の中でも頑張っただけ参りたいと思っております。

よろしくお願いいたします。

## 結城会長

ありがとうございました。

それでは鈴木委員、よろしくお願いいたします。

## 鈴木委員

七十七銀行から参りました鈴木恭子と申します、よろしくお願いいたします。

自己紹介をさせていただきますと、私、七十七銀行の地域開発部というところにおりまして、どういった仕事かといいますと、地方自治体の皆様との取引ですとか或いは、ざっくり、まち・ひと・しごとってあると思うんですけども、金融機関なので、外からヒト・モノ・カネをどれだけ持ってきて、地元の企業の方々

がどれだけ商売を潤わせて、そして、いろいろ皆さんお話されてましたけども働く人をどうやって増やしていくのかということ、真剣に考えている部署であります。

そんな中でも、私も娘が仕事を求めて東京に出て行ってしまって、1人の親としても仙台市民としても本当に危機感を覚えながらやっておるところであります。

皆さんの繰り返しになってしまいますけれども、地元民としてはやはり、仙台って素晴らしいコンテンツがたくさんあると思っております。

仙台城跡や瑞鳳殿、漫画・アニメ、今いろいろ力を入れていただいていると思います。それから、大好きな秋保温泉、作並温泉。そういったエリアもありますし、そういった多数のコンテンツをフル活用しまして、いかに観光客に周遊してもらうか。皆さんおっしゃっていますが、仙台市がしっかりとやっていくだけでなく、やはり東北全体で、面でやっていただくということ。東北を仙台がリードしていく、そういった立場でやっていきたいと、市民としては思っております。

これも皆様繰り返されてらっしゃいますが、他の地域の方とお話していく中で、やはり発信力が不足しているということは何の場面でも耳にします。観光もしかり、仕事の面でも企業の発信力が足りないから採用に結びついてないとか、そういった課題についても我々金融機関としては思っているので、その発信力の解決ということも、皆さんと一緒に考えていければ、というふうに思っています。

もちろん我々地方銀行ですので、観光振興ということで、観光事業者様のDX化やキャッシュレス化など、実務的にはそういったお手伝いをさせていただく場面も多くございます。また、東名阪など他の地域でも我々商売をさせていただいているので、様々な事業者様と連携するなかでいろいろな会話をさせていただいております。

先ほど高山委員もおっしゃっていましたが、最近の話題として、やはりラグジュアリーホテルというような単語も出てきております。また他の地域でこういったことが行われているかという情報交換の中で、ラグジュアリーホテルの他にもアーリーナの誘致という単語もつい最近出てきておりました。やはり仙台市、この地に興味を持っていただいている事業者様からも、様々な意見交換をしましょうということで我々の方にはお話をいただいております。

今ある「地元の素晴らしいコンテンツ」×「外からの力」、そういったことを一緒にこの場で議論させていただきたいというふうに思っています。

それから、観光客のみならず、と皆さんもおっしゃっていたと思いますが、やはり女性や若者が地方創生には必要だということは既に皆さん周知のことですので、若者とか女性が、ここに住んでよかった、ここで働いてよかったと思えるような、楽しく魅力的なまちづくりということもテーマに、皆さんとここで議論させていただければと思っております。以上でございます。

#### 結城会長

ありがとうございます。

1周したわけですけども増子副会長の方からも何か一言いただければと思います。

#### 増子副会長

本当に委員の皆さんから様々なご意見がある程度出揃ったかな、というような印象もありますが、私としましては、やはり仙台市さんの方で今回これだけの6つの重点プロジェクトを今日ご用意いただき、費やした時間というのは、相当だったんだろうなというふうに思っています。

全く否定するものでもなく、これをいかに具現化していった、様々なコンテンツをさらに提案をし続けていく必要があるな、という。これもやはり加速化させていく上で、即効力のあるものと。あとはやはり中長期的にいろんなことを描いていかなければいけないんだろうなと思っています。

長い目線でいけば、例えば広島原爆資料館は、昨年1年間の訪問者が、200万人を超えています。東北観光推進機構さんが発表されている東北の外国人宿泊者数を見ても229万人泊と、それに値するぐらいの数であるわけです。何を言わんとしてるかということ、東日本大震災で得たこの教訓というか、このレガシーというのを、今後、後世にどうやって残していくべきなのかということ。やはり東部沿岸エリアをどういうふうに活用していくのかということ、本当に長期的な目線で、2050年ぐらいまでの先々のことを考えると、とても重要な視点なのかなというふうに考えています。

それから、足元のもっばらの課題と言われている物価高騰で、本当に宿泊事業者の方々や、飲食店の方々皆さん本当に悲鳴を上げて、ご苦労されてらっしゃいます。そうした中でも、各経済団体でも賃金

を上げていかなければいけないとかいろいろ言われてますけれども、旅行の非日常を求めて外で学びを得たいという教育事業の分野においては、やはりそういう部分から高額化する旅行費用ですとか。或いは私たちがブルーオーシャンととらえている訪日インバウンド。これがオーバーツーリズム化していて、どうしても修学旅行とかで訪れようとする場所と、インバウンドが訪れてくる場所が、これが相重なって、今大きな課題に直面をしていると言われてます。

そしてまた東北における課題を見渡すと訪日インバウンドそれなりに来てはいるんです。

実際多く来ています。

ただ需給バランスからすると、その人達を動かすための貸切バス等の移動手段が、訪日インバウンドの方にある程度独占されつつあると。

こういうことを考えると、今まで生業としてきた教育旅行で、小学校とか中学校の探究学習という近場、東北域内を回遊する、次は隣の県や、仙台に来ようとか会津若松に行こうとか岩手に行こうとかこういうふうなことで、需要が満たされてる部分があったんですが、そこもある意味脅かされているという課題があります。

そう考えると、わざわざ修学旅行で東京や関西に行かずとも、仙台にどんどん来ていただくための、教育旅行の課題解決に向けた、こういったところをもっと充実させていく必要性があるのではないかと。仙台市には産官学様々な分野、食あるいは温泉、そして大型のシティホテルから大型の温泉旅館がたくさんあるわけで、これだけの受け皿がそろっているエリアというのは、全国見渡してもほとんどないと思います。

これを強みに変えて、キャラバンとして言葉と表情でしっかり国内外に伝え続けるということがとても重要ではないかと思っています。

プロモーションというキーワードも十分大事だと思っています。ここにはデジタルも活用しつつも、やはり人のコミュニケーションを介した、こういうことをさらに深めていく。郡市長がおっしゃられているような仙台の多様性だとかいろいろなことを、人との触れ合いというようなところを、強めていく絶好の機会ではないかと思っています。

そうした中で、私は実は JTB という立場でもあるんですけれども、来年 4 月から半年かけて「日本の旬 東北」という大きなキャンペーンを打ち出します。

これは国内のみならず海外の方々にも多く、東北に来ていただくという形をとりますが、当然ながら東北のゲートウェイとしてこの仙台を大きく発信をしていこうと思っています。

こういった重点プロジェクトをしっかりと世界中に発信をしつつ、私は教育旅行と訪日を強化していきたいというふうに考えています。

ありがとうございました。

### 結城会長

ありがとうございました。

皆さんからご意見いただきましたが実は今日庄子委員が欠席されておりまして、資料で配られております通りご意見書を預かっております。

事務局の方でご紹介いただけますか。

### 事務局(渡辺企画調整担当課長)

(庄子委員意見をご紹介) ※別紙参照

### 結城会長

ありがとうございました。

### 結城会長

それでは、私の方からも何点かお話しさせていただきたいと思います。

先ほど皆さんのお話を一巡聞かせていただきましたが、やはりハード面、それぞれの立場で施設・ホテルの不足。そういったハード面の設備整備に繋がるような施策。そして情報発信がまだまだ足りないのではないかと、というお話がありました。また東部エリア独特の防災の考え方や、いろいろ話があった中で、何点か思ったことがございます。いろいろ観光客の受入環境整備、二次交通の話もございました

が、多言語化、これも必要だという話もございました。

そういったものを受入環境として整備する。

それが宿泊税によって整備されれば、来訪客の快適性に繋がって、再び来訪するという意欲に繋がっていくんだと。

これがうまく回れば、民間投資に繋がって行って、最終的にホテル誘致に繋がるという循環がやはり大事な視点だと思うところです。そして忘れていけないもう1つの視点として、そういう受入環境が整うことで、地域の方々が自分の街が綺麗になった、二次交通ができて便利になったという、そういう実感というか、観光政策に対する納得感というか、そういった理解に繋がっていかねばいけないと思っています。そうしたよりよい環境整備の循環に繋がることが、本当の意味での持続可能な観光に繋がりますので、ぜひそういう視点を忘れないで施策を展開していただきたいと思います、と思っております。

少し具体的話になりますが、先ほど MICE の話がありまして、実は上半期は SenTIA でいろいろ MICE の分散開催の助成とかやっております。主催者の方と意見交換会する機会があり、先ほどの外科学会や、産業医の学会の先生方からお話を聞いたとき、やはり仙台ってすごく人気が高いそうです。仙台だったら行ってみようかという学会の方がいっぱいいらっちゃって、多少会費が高くても仙台なら行きたいと。

仙台観光するのも楽しいと言っていて、やはりまた観光に行きたいなど。

プラス観光という視点でも、やはり MICE というのは大事だなんていう話をしました。

ただやはり施設やホテルのキャパシティが、ということはおっしゃっていました。

国際センターでもおそらく1万人でぎりぎりだろうと。

それ以上キャパを超えてしまうとやはり難しいので、大きな学会を開催するのは難しいんだよね、分散開催はやっぱり避けたいっていう、お話も正直おっしゃっていました。長期的な話とおっしゃいましたが、それにつなげるためにはやはりその土壌となる足元をしっかりと見ながら、好循環をつないでいて。本当に今、札幌もすごいらしいです。ホテル、ラグジュアリーホテル件数、そういったものに繋がっていく部分があるんだろうというふうに思いますので、やはり皆さんいろいろ話し合った通り、そのハードをやる前提としてどんどん発信をしていて、仙台という魅力をどうやってお伝えするかというところに、注力してくということが、大事だと思いました。

ありがとうございました。

### 結城会長

それでは一巡しましたが、本来ならそれぞれ皆さん一人一人に対してコメントをいただきたいということでしたけども、なかなか時間もございませんので、しっかり事務局の方に受けとめていただきながら、まだ言い足りない部分、もう1回あるという方いらっちゃいましたら、ご発言をお願いしたいと思います。阿部委員どうぞ。

### 阿部委員

先ほどトップバッターで緊張して1点しか言っていませんでしたので、追加させていただきます。

まず多言語の対応強化について、今 AI 通訳の精度が大変上がっています。例えば宿泊施設について、大きい宿泊施設はいろんなところから豊富な人材を採用することが可能かと思いますが、小さい施設ですと、例えば中国語ができる人材、英語ができる人材さらにフランス語ができる人材を採用するというのが物理的に難しいと思います。

であれば、例えばその宿泊施設に対して、この AI 通訳のシステムの導入支援をされてはいかがでしょうか、と思っております。

あと仙台市は観光案内所や主要な観光施設へのそういう AI 翻訳の端末の配置とかがあると、ホテルだけではなく、街全体で受入態勢がしっかりと整備できている、という感じに皆さん受け取るのではないかなと思っています。

それから、ターゲット、市場の広げ方について申し上げたいと思います。

現在の仙台市の重点市場というのは台湾、タイ、今ヨーロッパだったりするんですけども。弊社はインバウンドランドオペレーター立場からよく台湾の旅行会社と話すチャンスがあって、団体ツアーが大分落ち着いてますよねっていう話はよく伺います。

特に最近個人旅行のお客様が7割近く占めていて、こうした状況が続くと、実は多くの方がもう何回も

日本に来ています。

仙台も1回2回ぐらいは来てるんじゃないか。

正直なところこれから空きが出るんじゃないかなと思っていますので、今のうちに、新しい市場の開拓をしっかりと進めていかないと、ちょっと空白の期間が出てしまのではないかと考えています。

そこでご提案するのが、中国全体に向けて、すぐ大規模なプロモーションをすることは難しいと思うんですけども、例えば今フライトのある香港を中心に、深圳、広州、珠海、そして上海といったこういう地域を絞る、現実的なプロモーションをされてはいかがでしょうかと思っています。

このエリアをおすすめする理由というのがやはり経済力がありますし、またこの人たちが本物志向の旅行者が多いので、東北の持つ自然とか文化の魅力をきちんと理解していただける方だと思っています。実際今の中国では初めて日本を訪れる方がまだまだ多いんです。しっかりと今プロモーションを重ねていけば、5年から10年の間に、仙台を含めるこの東北の観光ブームが必ず到来するのではないかと考えています。

その流れに乗るためにはやはり、今から市場開拓しないと駄目ですよ。

タイ、台湾、ヨーロッパという既存市場に加え、これからその中国の南部を投資のターゲットに、プロモーションにも力入れていただきたいし、プロモーションのためにしっかり予算をつけていただきたいと思っています。

さらに申し上げれば、やはり香港でサポートデスクを置いて、そこを中心に持続的なプロモーションを行っていただければ、宿泊者数も増えるし、仙台香港の便の定着にも繋がるのではないかと考えています。

補足は以上です。

#### 結城会長

ありがとうございました。

インバウンドの視点からということでした。

その他、皆様からございますか。

どうぞ梅原委員どうぞ。

#### 梅原委員

私も何一つ具体的なことを言っておりませんでした。先ほど皆さんのお話の中でも出ていましたが、意外と仙台市民の方でも地元のことを知らないということってすごく多いんですね。ホテルで働いているスタッフというのも、実はそういう部分が多く、例えば仙台のお祭りにすごく詳しいスタッフとか、例えば牛タンにすごく詳しいスタッフとかずんだに詳しいスタッフとか、そういうスタッフがいてもいいなと思っています。

ホテルスタッフは名札を着用していて、ソムリエではないですが、例えばずんだのバッチがあったり、牛タンバッチがあったり、ぜひそういうことを仙台市でホテルスタッフ対象に、講習会のようなものを開いて、それを仙台市でバッチを発行して、ずんだのソムリエじゃないですけども、このスタッフはずんだは詳しいよとか、そういう人がホテルにいて、そういう情報発信をするというのが面白いのではないかと考えています。例えばSNSやネットで調べればいろいろな情報は得られますが、やはりお客様は地元の方の声が聞きたいとか、そういうことがよくありまして、そのホテルスタッフとお客様とのコミュニケーションがすごく多いんですね。

なので我々が仙台の良さを観光客の方に広めるという部分で、何かこう1つでも力になればなと思っていますので、ぜひ仙台市としてもそういう人を育てるような仕組みを作っていただければなと思います。

#### 結城会長

ありがとうございました。

すごく話題性があるようなご意見で、発信力や仙台独自の取り組みに繋がるような、そんなご意見でございました。ありがとうございました。

その他皆さんからございますでしょうか。

まだちょっと時間がありますので、せっかくの機会ですので、いかがでしょうか。

どうぞ、嘉藤委員。

### 嘉藤委員

皆様方からも発信力はやはり弱いというお話をいただきましたけれど、今どきは観光の目的もそれぞれ多様化していますし、やはり発信というのは伝えるだけではなくて、ターゲット層に伝わるのが大事だと思っています。

先ほど増子副会長から教育旅行の話が出ましたけれども、当社でも地域の中小企業とともに、教育旅行でどうやったら来てくれるんだろう考えています。どこにどう発信すると来てもらえるんだろうというまずそこからなかなか分からなくて。旅行エージェントさんをお願いすればいいのかなとか。そこから1歩超えて、宮城県の方々と北海道にキャラバンで修学旅行誘致のPRに行き、直接、学校関係者の方にPRしてこようという、ことも実施しました。

そこで聞いたところ、先生たちのお心をまず動かせばいいのか、とも思ったんですけども。最近、まずは学校が修学旅行に行くためには、学びのコンテンツがなければならないというので、やはりそういった大事なコンテンツをこちらで用意しなければならないだと。また最近では学校側が教育旅行をプランニングするというのではなくて、子どもたちに主体性を持たせるという、子どもたちにどんなところに行きたいかという、そのプランを子どもたちに考えさせるという話を聞きました。仙台の魅力を、やはり子どもたちに向けて、ここに修学旅行に行ってみたいと思ってもらう、そんな発信が必要なんだ、ということも知ったりしているので。発信の仕方は非常に難しいとは思いますが、ターゲットをちゃんと明確にした発信の仕方、その工夫も大事だと感じています。

以上です。

### 結城会長

ありがとうございました。

深松委員、どうぞ。

### 深松委員

今の嘉藤委員のお話を聞いていて思ったことですが、弊社の社長が全国を飛び回っている中で、全然仙台がどこにあるか、特に関東より西から全然知られていなくて。私も知り合いが東京からこちらに会いに来てくれるということで、「初めて仙台来たんだけど近いね」「そうだよ」といった話をよくします。インバウンドという外国の方を狙うというのもあるんですが、まず日本人の方。関西空港と仙台空港って、結構な頻度で便が飛んでいたり、実は陸路より安かったりもするので、関西をターゲットにするのもいいのではないかと。教育コンテンツは本当に私たちもやりたいなと思っていますし、先ほど増子委員もおっしゃっていただいたように、唯一無二でいえば、我々が経験をしていること、というのは発信できるはずなので、そこを1事業者だと弱いんですけど。ちゃんと学びになるようなものとして整備していけば、そのターゲットをまず関西の小中学校にして、その人たちが教育コンテンツでこっちの沿岸部に来てもらいながら、最後仙台の中心部で泊まってといったような。全然作れるのではないかなと今のお話をお伺いしながらも思っていました。

### 結城会長

ありがとうございました。

林委員どうぞ。

### 林委員

教育旅行に関してですが、コロナで失ったものがたくさんありまして、ビジネスの需要は1割ぐらい減っています。しかし、実はコロナの時に教育旅行がたくさん来てもらっていました。

私どもメトロポリタンだけで言えば、コロナ前まではほぼ0だった受入が、コロナ禍の当時40校ぐらい受入を行いました。コロナ前は皆さん関東関西の方に行かれていて、仙台にいらしていませんでしたけれども、コロナであまり密集してるところは駄目だとか、テーマパークとかそういうところも良くないという形で。東北の方は密ではないからいいのではないかと、ということで教育旅行に来ていただいたのかなと思います。またその時にやはり震災遺構、福島宮城岩手という沿岸部、そういうところが対象ということでした。コロナの終息とともに修学旅行ももう来ないだろうと思っていましたが、全然減っておらず、今

年も全国各地から45校ぐらい来てもらう予定です。  
正式に言うと四国からはいらっしゃいませんが、北海道から九州まで中学生高校生にいらしていただいています。

それに伴って、ホテルの方もツインからトリプルにしてくれと要望がありましたので、ツインの部屋をすべてスリーベッドができるような、トリプルに変えるような対応をしております。そういうこともあって、来ていただいている。

これはやはり今後もずっと続けていきたいし、我々も1部屋に3人学生が泊まってくると十分ペイしますので、ホテルとしても成り立つということもあります。今アクアイグニスさんもいろいろ頑張っていただいていますけども、我々も1企業としては仙台ターミナルビルということで、JRフルーツパーク仙台荒浜というのを荒浜小学校の前で今11ヘクタールの規模でやっています。これも2期開発が決定しまして、仙台市さんの方から土地を更にお借りできるということで、ほぼ倍の20、21ヘクタールぐらいまで拡大するというのを27年度を目標に今すすめています。

その中に、震災遺構も作って、そういう教育旅行で震災の勉強もしていただき、かつフルーツパークで、摘み取り体験もできるように。そして水族館や塩釜・松島とかそういった観光地、或いは笹かま造りをはじめとしたいろいろな体験等、教育旅行のコンテンツはいっぱいあると思いますので、そういうところもやっていきたいと思います。なのでインバウンドだけではなく、地道に教育旅行もしっかり受け入れながら減らさないという、そういうことをやっていきたいと思っていますところなんです。

紹介になりましたがよろしく願いいたします。

#### 結城会長

やはり子どもが教育旅行に来て、仙台良かったよ、と家族に言って、またそういうのが繋がるということも大事な取り組みかなというふうに思います。一方で教育旅行もバスの話もございましたし、受ければ受けるほど、受ける側のホテルの方もキャパシティやご飯の問題、いろいろ課題もあるというふうに伺いましたので、知恵をして絞って、誘客につなげていかなければ、というふうに感じた次第でございます。何かコメントございますか。

#### 増子副会長

教育旅行の話があって、追加でお話をすると、昨年から文部科学省や日本観光振興協会と一緒にになって、書面をお作りして、各地方自治体の皆様方に教育旅行の分散のお願いを、訪日インバウンドがたくさん来てますから、そういうお願いをしています。

そして今年からは、日本旅行業協会の方では休み方改革をさらに進化させようということで、「ラーケーション」、ラーニングとバケーションこれを組み合わせた形で、いわゆる令和5年から愛知県の大村知事が推進して、今全国に広がろうとしてるんですが、残念ながら東日本ではなかなか推進に至っていない。東北の皆さんは遅いとよく言われますけれども、ぜひ仙台市さんが先駆けて、いわゆる忌引きとかと同じような扱いでお休みにしてあげて、子どもたちに親御さんと一緒に、市内の観光地をめぐっていただいたりお泊まりをしていただいたりというラーケーションを推進して、地元を知るという身近なところから、教育旅行のコンテンツを体験いただき例えば市民には割引で提供する助成もありだと思います。

そういうことで輪を広げていって、さらには東北の人たちにも来てもらうという、そして移住定住にも結びつける、また教育旅行が何を目指していくのかというところを、足元の課題と上手く組み合わせた動きができたら良いと思っています。

今そんなことを日本旅行業協会でも推進を始めているところでございますので、ぜひ仙台市で先に実施できたらいいなと思っています。

お願いします。

#### 結城会長

ありがとうございました。

皆さんからそれぞれご意見をいただきまして、仙台らしさ、情報発信のこと、それからアドベンチャーツーリズムの話もございました。

最後に本日この議論ずっと聞いていただきました、郡市長の方からコメントをいただければと思います

がいかがでしょうか。  
よろしくお願ひいたします。

### 仙台市長

まずもって皆様方に活発なご議論いただきましたことを深く御礼申し上げたいと思います。

多くの方々が発信力について言及されておりました。

発信って非常に難しい。

伝える側の気持ちだけが先んじてしまい、伝わっていないってことはよくあると思うんですね。

特に行政のする発信というのは、どうにも文字が多くなって文章が長くなって、わかりづらいものが多いなっているということも多分あるのではないかと思ったりもしているところですよ。

今どきは短い文章でわかりやすく、感覚に訴えるような発信の仕方が重要になってきているのだろうと、私自身も感じております。そのような取り組みも含めて、いかに伝わるような発信ができるか、考えて参りたいというふうに思います。

それから本当にいろんなご提案もいただきまして、大変心強く思ったところでございます。

多言語の通訳について、これは小さな旅行業者の皆様方、宿泊事業者の皆様方も大変じゃないかということで、AI ツール、このシステム導入についてはやれるのではないかと。即決ができそうだということをごここでまず申し上げたいと思います。

それからまた深松委員がおっしゃっていた道路について、ちゃんと避難道路は、こちらだと示すようなものが、観光の売りにもなるのではないかとというご提案も非常に興味深く聞かせていただいたところでございます。

教育旅行についても、私も思い出したところですが、東日本大震災の後、すぐに九州福岡の子どもたちがぜひ被災地に行きたいということで、教育旅行を企画されました。私もその感想文を見せていただく機会があったのですが、子どもたちはこんなにもいろんなことを被災地に入って学んでいるのねと思って、とても感動したことを思い出したところですよ。そういう意味で、東日本大震災を経験した本市は、防災環境都市でもありますし、これを糧にした教育旅行というのも、今回の資料に言及はありませんでしたけれども、あり得るということも、改めての認識をさせていただいたところでございます。

林委員からラーケーションについてもお話ありましたけれども、なかなかみんなでお休みを取ることについて、これも今の働き方改革の中で、どのようにアピールできるのか企業の皆様方もいろいろお話をしながらだと思ふところ。また、17 ページの「moreTOHOKU」の中に特設ページ

「aroundSENDAI」というものを作って、実は仙台都市圏 14 市町村の対象となる施設をめぐってもらえるような新たな取り組みというの、進めているところですよ。

地道なところではありますけれども、こうしたところで地域の魅力というの、子どもたちから回ってもらえるというふうにも再度思ったところでもございました。

いろんなご意見をちょうだいいたしました。

それぞれの現場でお感じになってらっしゃることを基に、これからの方向性について本当に有用なご意見をちょうだいいたしましたこと、改めて感謝を申し上げます。

ぜひ観光 MICE 都市として、仙台をより高みに持っていけるように、また皆様方のご理解をいただきながら進めて参りたいと思ふので今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

本当にありがとうございました。

### 結城会長

ありがとうございました。

それでは会議の方お時間となりましたので特段皆様の方からなければこの辺で終了させていただきたいというふうに存じます。

事務局の方にマイクをお返ししたいと思います。

どうぞよろしくお願ひします。ありがとうございました。

### 司会

結城会長ありがとうございました。

本会議の次回開催につきましては、来年度の開催と予定となっておりますので、時期が近づきました

ら日程調整等のご連絡をさせていただきます。  
それでは以上をもちまして、第1回仙台市観光戦略推進検討会議を終了させていただきます。  
本日は誠にありがとうございました。